

「この本、よかった！」(116)  
『きみはほんとうにステキだね』  
作・絵 宮西 達也  
(ポプラ社)

皆さんにもおすすめしたい「くまどく本」、今月は、熊野第三小学校からです。(学年は3月時点)

中下 暁人(2年生)  
ティラノサウルスがエラスモサウルスをおんぶして、りくの上を見せてあげるシーンがすきです。ステキだねって言うってくれる友だちがいたら、うれしい気持ちになると思いました。

中下 亜美(母)  
暴れん坊で意地悪な恐竜が優しく素直な恐竜と出逢い、どんどん変わっていく様子が印象的なお話。優しさは伝染し、友達が存在が心を温めることを教えてくれるステキな一冊です。



(教育総務課)

第6回キッズフェスタ  
in 深原公園 開催

4月29日(土・祝) 9時半～16時(雨天中止)

▽内容：ステージ(和太鼓、大道芸、生演奏など)、宝探し、迷路遊び、乗馬体験、車両展示、屋台、キッチンカー、お楽しみ抽選会など

▽所東ふれあい館、深原地区公園 ※当日はグラウンドおよびお風呂の利用はできません。  
▽主催：祭り実行委員会  
▽東ふれあい館内事務所  
☎820・5580

(社会福祉課)

4月は若年層の性暴力被害  
予防月間です

【電話相談窓口】

○性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター(内閣府)  
☎#8891

○性犯罪被害相談(警察)  
☎#8103

(生活環境課)

地域とともに

熊野第二小学校

今年の熊野第二小学校の持久走記録会は、地域にある「深原地区公園」を使用させていただき、2月15日(水)に実施しました。

子どもたちはこれまで、大休憩に行われる「ランランタイム」や体育科の授業で行う長距離走を中心に練習を積み重ねてきました。当日は、とても寒い中での大会になりましたが、それぞれのもつ記録の更新と自ら立てた目標に向かって、全力で頑張りました。「地域の日」も兼ねており、遊歩道周辺でたくさんの保護者の皆さまや地域の皆さまにご声援をいただき、子どもたちの頑張る力になりました。走り終わった後の子どもたちの顔は充実感でキラキラ輝いていました。ありがとうございました。

これからも、学校・保護者・地域の絆を大切に、みんなで子どもたちの成長に声援を送っていききたいと思います。よろしく申し上げます。



▲持久走記録会の様子

(教育総務課)

張り切る生徒会執行部！

熊野東中学校

春の訪れとともに、生徒会執行部の活動が本格的に始まっています。

期待と不安を抱えて入学してくる新入生がスムーズに中学校生活になじめるよう、オリエンテーションの準備に取り組んでいます。

具体的には、授業の受け方や部活動の内容、生徒会活動などの学校生活全般についてのガイダンス作成です。2年前に先輩から受けたアドバイスにより、今の自分たちがいることに感謝し、新入生に分かりやすい説明になるよう話し合いを重ねています。

新執行部は、コロナ禍で多くの制約がある中、伝統を「止めないこと」「できないことを悔やむのではなく、今できることを行うこと」をモットーに、確かな足跡を残した先輩執行部員の背中を見て学校生活を送っています。そして、いろいろとアイデアを出し合い実行しています。

新執行部には、先輩たちから学んだ精神と自分たちのオリジナリティで、更に一步前進した熊野東中学校にしてくれると期待しています。



▲生徒会執行部

(教育総務課)

芸術類型 卒業演奏会・作品展

熊野高等学校

この地に (323)

2月18日(土)にエリザベト音楽大学ザビエルホールにおいて、音楽コースの卒業演奏会を開催しました。感染症対策が緩和されて人数制限がなくなり、多くの人に鑑賞していただくことができました。7人の生徒が、3年間練習を積み重ねて習得した技術と思いを存分に披露しました。

また、2月21日(火)から26日(日)まで県立美術館県民ギャラリーで卒業作品展を開催しました。美術コース生は作品とともに自画像を配置し、自分の性格や個性を表現しました。書道コース生は漢字による5本の合作軸を中心に、自分たちの個性あふれる作品を配置しました。生徒は来場者に自分の作品の意図を解説するなど、3年間の集大成とすることができました。

ご来場いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。



▲音楽コース



▲書道コース



▲美術コース

熊野高等学校 ☎854-4155

人権とわたし 外国人の人権

言語、宗教、習慣などの様々な違いを背景に、外国人の就労に際しての差別や入居・入店拒否などさまざまな問題が生じています。

異なる文化、生活習慣、価値観などへの理解を深め、外国人が安心して生活できる多文化社会を目指していくことが必要です。

○外国人が感じている「3つの壁」

外国人が日本で生活していくには、「言葉・文化の壁」、「制度の壁」、「心の壁」の3つの壁があるといわれています。特に、見た目による先入観や偏見、あるいは価値観の違いに対する誤解などから「心の壁」が差別につながる場合があります。

○多文化共生社会を目指して

多文化共生社会とは「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されています。

外国人が地域社会へ積極的に参加することが、ひいては地域社会の活力と発展につながるのではないのでしょうか。

異なる文化、生活習慣、価値観などへの理解を深めるとともに、地域における多様性を認め、尊重する地域となるよう、同じ地域に暮らす私たち一人ひとりが、「心の壁」をなくし、身近なところから共に行動しませんか。

出典：人権啓発冊子『「気づき」から「きずな」へ』(令和4年2月広島県発行)

(生活環境課)